

PFOS・PFOA検査 受託開始

PFOS・PFOA

有機フッ素化
化合物(PFAS)
の一種

自然界に残留する「永遠の化学物質」

はじめに

PFASは環境省によると2000年代はじめまで、様々な工業で利用され、身の回りの製品を作る際にも使われていました
2009年以降、環境中での残留性や健康への影響の懸念から国際的に規制が進み、現在日本でも製造・輸入が禁止されています。
新たに作られることは原則ありませんが、分解されにくく今でも環境中に残っています

人体への影響

「ヒトに対して発がん性がある」と国際がん研究機関（IARC）が分類しているが、どの程度の量が体に入ると影響がでるかなどの詳細は分かっておらず、PFOS・PFOAの測定が注目されています。

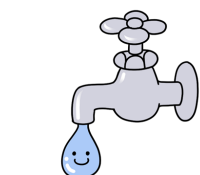
法的な規制

日本では現在水道水や河川での水質管理上の暫定目標値はPFOSとPFOA 2物質合計で1リットル当たり50ナノグラムと定められていますが、基準値を超えた場合に水道事業者などに基準値以下に下げる法的義務はなく努力目標にとどまっています

検査要項

水質 PFOS・PFOA検査

- 検査項目 PFOS・PFOAセット（PFOSおよびPFOA・PFOS・PFOA）
- 検査対象 飲料水・ミネラルウォーターなど
（排水・下水・河川水についてはご相談ください）
- 国内の水道水暫定目標値 PFOS、PFOAの合算値で50ng/L以下
- 所要日数 11営業日
- 料金 35,000円



* 検査の流れ

お問合せ

●ホームページやお電話にてお問い合わせください。

ヒアリング

●弊社担当より、詳細に関してヒアリングいたします。

採水

●弊社よりお送りする専用の採水容器をご利用ください。

検査・分析

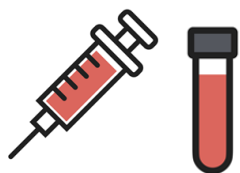
●専門の検査技師が検査分析いたします

結果報告

●検査報告書を郵送でお届けいたします（メール送付可）

血液 PFAS（有機フッ素化合物）

- 検体量 全血5ml（血清0.5mL冷蔵）
- 検査方法 LC-MS/MS法
- 基準値 設定せず
参考基準値 血清中のPFAS濃度が20ng/mL以上の場合PFAS曝露の低減を奨励



お問い合わせ・お申込み

(株)臨床宮崎

TEL 0985-52-6688

FAX 0985-52-8093